

ほ ど 教育センター通信

火床の火の心を紡ぐ

第9号（通算81号）
令和3年1月22日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター 発行

和釘づくり学習

一ノ木戸小学校



クラスの取組を学校そして学園へ

小中一貫教育推進課 指導主事 生方清司

各学校では学びのユニバーサルデザイン（以下「UDL」）の取組を進めていただいていることと思います。進級して教室が変わったり、担任が変わったりした際、児童生徒が適応できなくなることがあります。それまでされてきた配慮がなくなったり、足りなかったりすることで適応できなくなると考えられます。短い引継ぎ時間では十分に伝えることは難しいところもあるかもしれません。そこで、各クラスで今まで取り組んできたUDLを学校に広めてスクールスタンダード（学校の標準的なもの）としていただきたいのです。校内のどのクラスでも同じようにUDLの取組が進めば、進級して学習する場が変わったとしても、混乱なく学習できたり、生活できたりします。

例えば、補聴器を装着しているお子さんのいるクラスでは合理的配慮で教室の机や椅子にテニスボールをはめています。すると、補聴器を装着しているお子さんは聞き取りやすくなります。これに加えて、クラス全員も静かな環境で学習できます。特定のクラスだけでなく校内すべての教室に広げると、どのクラスも静かな環境で学習できるだけでなく、補聴器を装着したお子さんはどのクラスでも聞き取りやすい環境となります。

また、学習問題には「◎（二重丸）」をつける、まとめや振り返りの印を統一するなど、校内のどの先生も同じ対応であれば、担任以外の先生による授業でも児童生徒は安心して学習を進めることができます。この取組は四つ葉学園（井栗小学校・保内小学校・旭小学校・第四中学校）を始め、市内の各学園で進めているところです。

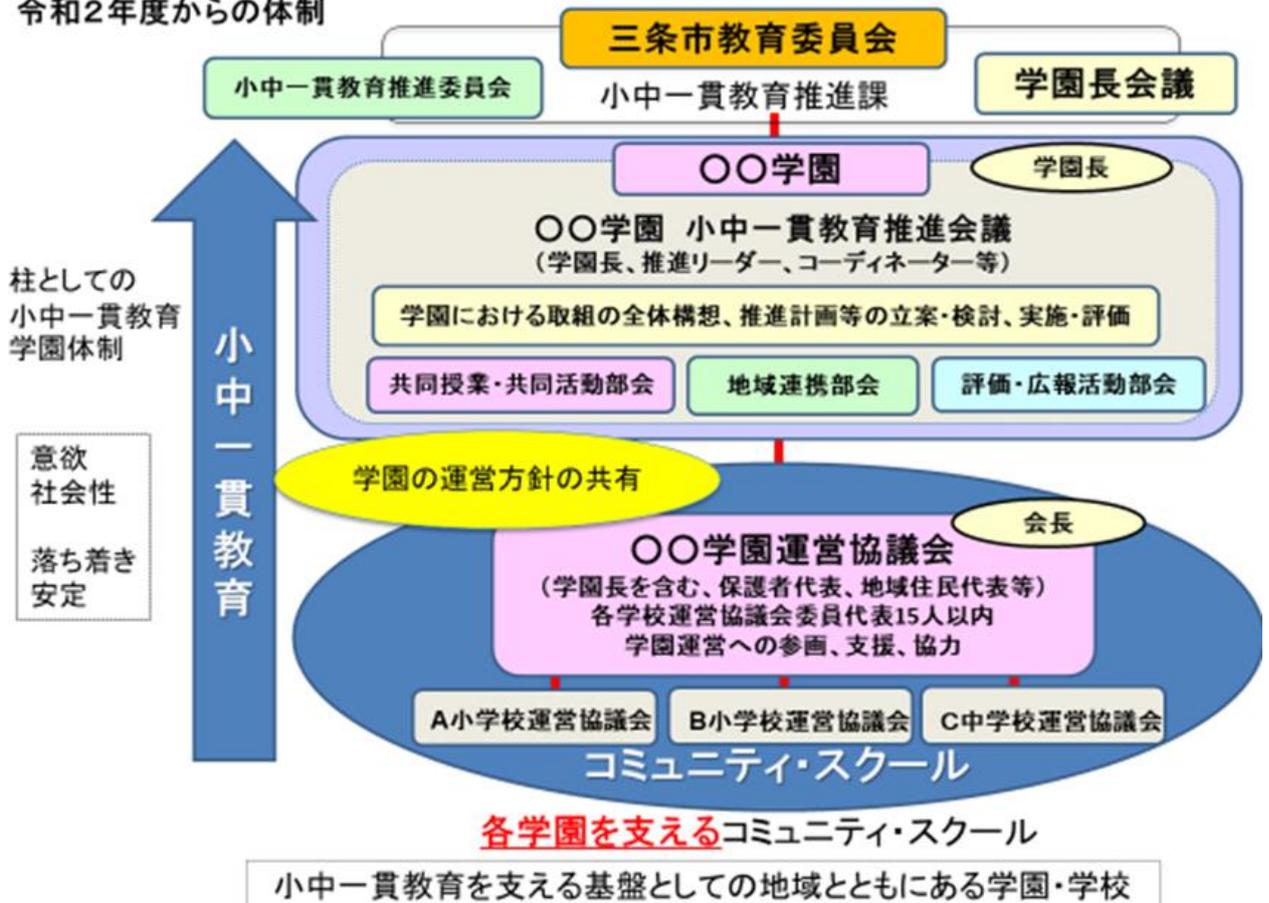
三条市が進めている小中一貫教育では、児童生徒の学びや学校生活向上のために乗り入れ授業や交流活動を進めていただいています。更に、UDLの取組を学校そして学園へと広めていくことは必須のことと考えています。

地域とともにある学校づくり ～三条市のコミュニティ・スクールの取組～

三条市では、地域の未来を担う子どもの育成を目指し、学校・家庭・地域が連携・協力しながら行う「地域とともにある学校づくり」を推進しています。

令和2年度には、全ての学園及び学校に運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールを全市導入いたしました。

令和2年度からの体制



上の図にあるようにコミュニティ・スクールは、小中一貫教育を支える基盤です。三条市では、平成29年度にモデル校での設置を始めとして、順次各学校に設置してきました。

年度	コミュニティ・スクール導入の学校
平成29年度	三条おおじま学園の3校・さかえ学園4校（7校はモデル校として設置）
令和元年度	四つ葉学園の4校・ただの郷学園6校・月岡小学校（瑞穂学園）
令和2年度	嵐南学園の2校・三条学園の3校・一ノ木戸ポプラ学園の2校 瑞穂学園の2校・全学園の学園運営協議会

本年度設置の学園運営協議会は、学園制を進める三条市独自の取組です。各学園や学校では年3～4回程度の運営協議会が開催されています。

学園・学校運営協議会の在り方は、各学園・学校で様々です。

まずは、学校の児童生徒の様子を委員の方々に実態を知っていただきたいということで授業参観をしているところも多いです。その後、学校評価や現在の学校の取組等について話し合いをしています。

協働活動を行っている学校もあります。挨拶運動や交通安全の見守り活動などについての取組が見られます。

各学園・学校では工夫した取組や学校の実態にあった熟議がされています。裏館小学校と大浦小学校での今年度の取組を紹介しますので、今後の参考にしてください。

裏館小学校



また、運営協議会委員の中に三条凧協会の方がおられ、協会の方から学習活動に御協力いただくことができました。3年生の総合的な学習の時間の一環で、凧揚げを体験する子どもたちです。地域の方々と直接触れ合うことで、子どもたちの故郷三条を愛する心が育まれたことと思います。

10月30日の第2回学校運営協議会において、新型コロナウイルス感染症対策について話し合われました。今年度は、消毒作業や感染症拡大の防止のため、どの学校も配慮されているところです。会の中では、福祉施設所属の委員から感染症対策について、専門的な見地から御意見をいただくことができたそうです。

学校運営協議会の委員には、様々な役職や職業の方々から務めていただいています。学校運営について専門的な御意見をいただく機会ともなります。



大浦小学校



大浦小学校では、大浦コミュニティと学校運営協議会の共催で、11月に3世代交流演劇鑑賞会が開催されました。

当日は、子どもたちだけでなく、保護者や地域の方々も一緒に小学校の体育館で演劇を鑑賞しました。今年度が初めての取組です。

普段は学校にあまり入ることのない地域の方々も気軽に学校を訪れることができた機会となったのではないのでしょうか。

地域のコミュニティと学校運営協議会の連携が強くなれば、地域の方々や学校の距離が縮まります。こうした活動を重ねることで地域も学校も元気になります。

コミュニティ・スクールは地域と学校の結び付きを強め、お互いに刺激し合いながら、地域も学校も元気になる取組と考えています。

三条市小・中学校新春書初 審査(1月14日)

毎年恒例の三条市小・中学校新春書初展でしたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、栄庁舎での展示は中止とし、審査と表彰のみとなりました。

今年度は小学校450作品、中学校260作品の合計710作品の審査となりました。審査員は昨年に引き続き、新潟県書道教育研究会から理事長の中村暢子さん、木原光威さん、そして今年から新たに加わった和田ゆきえさんの3名の方から務めていただきました。

1月14日、栄庁舎3階ホールのカーペットに力作が並びました。作品一枚一枚を、審査員の方々が真剣な眼差しで見つめていました。「学年が上がるにつれて練度(れんど)が高くなって、技術力、表現力ともよくなっています」(審査員)とのこと。出品した皆さんには、金賞、銀賞、銅賞の賞状が贈られます。



教研式個人累積システム(Portfolio System)の紹介

三条市では、教研式個人累積システム(以下P S)を取り入れ、小中一貫教育の推進を図っています。ここでは、P Sとは何か、どんなことができるのかについて紹介します。

P Sは、教研式の標準学力検査NRT、Q-Uなどの個人データを累積し、児童生徒一人一人の経年比較や心理的側面を多面的かつ客観的に把握できる資料です。

【資料1】累積個人票

毎年の検査結果を取り込むことで、個人の学力の推移を把握することができます。最大で9年間の個人比較資料が作成可能です。

【資料2】個人カルテ

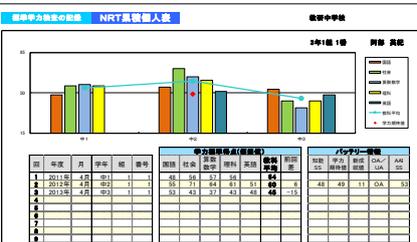
異なる年度や異なる検査の結果をならべて帳票にまとめることができます。指導や児童・生徒理解の目的やねらいに合わせた帳票を作成することが可能です。

【資料3】バッテリーシート

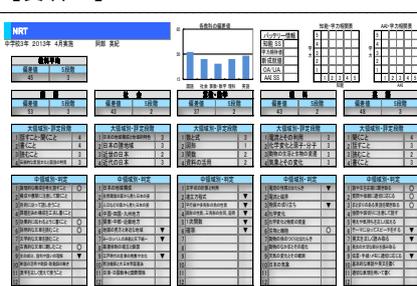
教研式NRT、Q-Uなどの結果を1枚の帳票にまとめて出力します。児童・生徒の特徴が一目でわかる資料として活用できます。

小中一貫教育は、義務教育9年間を連続した期間ととらえ、児童生徒の発達段階に応じた一貫性のある学習指導・生活指導を行うものです。標準化データを基にしたP Sは、児童生徒の指導において、様々な場面で活用できる可能性があります。

【資料1】



【資料2】



【資料3】

